

平成17年度 学校経営報告書

学校番号	42	学校名	静岡県立静岡東高等学校	校長名	須藤 壽忠
------	----	-----	-------------	-----	-------

1. 今年度の取り組みと評価

数値目標の結果は必ず明示するとともに、結果のみでなく、学校の取組状況(プロセス)を評価、分析、明示する。

(1) 重点目標への取り組みと評価

- ・生徒の交通マナー遵守の意識向上を図り、交通事故を減らす。(平成17年度16件)
交通指導教室(1・2・3年)、年間3回の街頭交通指導、交通安全標語募集・表彰等を実施。98%の自転車通学生がいるので、交通ルールの遵守をさらに図っていく。
- ・時差登校時間を厳守し、年間延べ遅刻者数を減少させる。(平成17年度2807人)
1年8:20から10分間の朝読書、2年8:20から5分間の小テスト、3年8:25登校の時差登校時間を設け、登校時の混雑回避、1・2年生の学習時間を確保させるとともに、遅刻の減少を図る。年度末になると増加の傾向にあるので注意喚起する。
- ・日常生活のリズムを安定させ、欠席者数を減少させる。(平成17年度 3,540人)
年間3回の統計資料を作り、生徒に注意を喚起する。年度末になると増加の傾向があるので、家庭生活を安定させ、学校中心の生活に向けるよう注意喚起する。
- ・国公立4年制大学合格を40%、実進学を3分の1以上にする。(国公立合格149名、実進学133名)
学年部の意思統一を図る。シラバスの活用、実力試験の分析、最後まで諦めないで挑戦させる。
- ・より一層の進学指導体制充実のため、職員を8人以上先道枝へ派遣する。
先進校(群馬県立前橋・高崎高校、茨城県立下妻第一高校、富山県立富山・富山中部・高岡高校、愛媛県立松山・松山東高校)を視察し、校内研修会で発表。取り入れられる内容は今後の進路指導に活かしていく。
- ・図書館の年間貸し出し教を2,500冊以上にする。平成17年度 3,200冊)
進路意識の向上や人間としての幅を広げ教養を身に付けるために、本の紹介、図書便りを年6回作成配布、図書館整備などに取り組み、読書意欲の向上を図った。貸し出し数は多いが、考える力を育成していきたい。

(2) 教育活動への取組と評価

- ・教育活動の成果(児童・生徒達の変容、社会参加、自立、進学、就職やその内容等)や目標の達成度が具体的に明示できるよう工夫する。
- ・学力向上委員会を継続して、東高としての授業のおり方を研究する。
中学校の教員対象に公開授業をしている。各教科でシラバスの指導目標、授業内容や在り方を研修している。また、生徒に授業の自己評価をさせ、教科会議で検討し、それを授業に活かしている。
- ・年3回の面接を通じた総合的個別指導を充実させる。
年4回の面接を実施した。4月は授業を短縮して面接実施。7、10、1月の3回はチェック表をもとに面談を実施している。教員は大変忙しいが、生徒が自分を見つめる機会に十分になっている。

様式第3号

2 次年度以降の課題と対応策

各学校の中期的目標と方策を踏まえ、次年度の課題と対応策を具体的かつ簡略に表す。

- ・カウンセリング・教育相談を充実させ、長期欠奏者の対応を図る。
- ・生徒の健全な育成のために、服装・頭髮の指導を職員全員で行う。
- ・清掃美化に努め、清潔で学習に適した環境の充実に努める。
- ・年3回、教師と保護者、生徒の三者が交通の要衝に立ち、交通マナーの実地指導をする。また、そこでの反省をもとに生徒指導に反映させる。
- ・学年部・教務課と連携し、日常の学習指導及び学校設定科目・PTA進路講座・長期体集中の補講を体系化して指導の充実に図る。特に、5教科7科目の対応を優先して行う。
- ・学習時間調査の結果を、日常の学習指導及び週末課題に活かす。
- ・高大連携事業の専門教養講座に加えて中高連携の体制を整え、新入生が中学から高校の学習内容へ抵抗なく移行できるよう研究する。
- ・高校生活導入指導プログラムにより、新入生が早く高校の学習習慣が身につくよう指導する。具体的には、高校生の学習方法を記した「学習の道しるべ」を使い、新入生に授業の受け方・ノートのとり方今家庭学習の必要性を指導する。
- ・新入生に対して4月中の1週間をかけて学習態勢を整えるため、授業後に予習・復習の時間を体験学習させ、その重要性を指導する。
- ・学習・生活プログラムを作成し、宿題や基礎学力の定着を目的にした週末課題を実施し、家庭学習と授業への取り組みを充実させる。
- ・家庭学習の大切さを認識させるため、意識的に予習・復習をさせる授業を行い、家庭学習強化週間を設定する。「家庭学習最低3時間」をスローガンとして目標に向かって努力させる。
- ・生徒一人ひとりの活力・特性の伸長のため、HR活動や生徒全活動の充実に図り、学校行事への参加意欲を高めることにより、学校の一層の活性化を図る。
- ・学業と部活動の両立を図るため、顧問、担任、教育相談担当が連携を取りながら精神的支援・学習支援を行う。
- ・1年生の朝読書の内容充実に図る為に、学級文庫をつくる。図書室に朝読書用学級図書を整備、推薦図書紹介等を行う。
- ・教職員・生徒に向けて、新着図書の紹介、小論文対策用図書の整備紹介等、適切な情報提供を継続的に実施する。
- ・学校経営の方針や学校の特色がわかる学校案内を作成し配布する。
- ・学校のホームページを必要に応じて迅速に更新し、学校の最新情報提供に努める。
- ・心の教育、学級懇談会、進路説明会等を通じて保護者に学校の最新情報を提供する。
- ・中学生1目体験入学を魅力あるように工夫し、充実させる。
- ・東海地震に備え、防災意識の向上と具体的な避難方法等について指導する。12月の地域防災訓練には積極的に参加させる。